

令和2年度 渋谷区立鉢山中学校 経営方針

校長 畠山 直也

1 学校の教育目標と目指す学校像

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、生涯にわたり心身ともに健康で、国際的視野をもち、自主的精神に満ちた人間性豊かな生徒の育成を目指すとともに、家庭・地域・学校が連携し質の高い教育を目指し、確かな学力を身に付け、社会の規範をまもり、自ら考え判断し行動できる生徒の育成を図るために、次の目標を設定する。

- よく考え、すすんで学ぶ生徒の育成
- 創造性豊かな生徒の育成
- 健康で明るい生徒の育成

(2) 目指す学校像

- 子供が本来もつ知的好奇心が刺激され、主体的・対話的で、深く学ぶ意欲を高めることができる授業が展開される学校
- 子供は、ぶつかり合いながらも、互いに、認め合い、励まし合い、高めあえる温かな人間関係がある学校
- 善悪のけじめがあり、正義がみなぎり、いじめゼロの誇りある毅然とした集団の雰囲気がある学校
- 体罰防止と生徒理解に基づく心の落ち着きと潤いのある学校環境が整備されている学校

2 中期的目標とその方策

(1) 豊かな感性と思いやりの心、たくましい身体を育む

- あらゆる教育活動を通して「心豊かでたくましい生徒」を育成する。
- 道徳の授業や全教育活動を通して、自他の生命を尊重し、互いを認め合いながら、よりよきもの・より高いものを求める心を育成する。
- 特別活動を通して、他を思いやりながら、集団や社会の一員としてよりよい学校生活を築こうとする主体的・実践的な態度を養っていく。
- 心身の健康保持・増進を主体的に図る能力を育成するための教育活動を充実する。
- 個別面談やおしゃべりデーなどの教育相談を通して、生徒のメンタル面のサポートの充実を図る。

(2) 「確かな学力」を「主体的・対話的で、深い学び」の中で身につけさせる

- 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を展開するため、研究授業や公開授業を実施して互いに研修を深め、指導方法や指導技術を向上させる。
- 生徒の「主体的・対話的で深い学び」を適正に評価・評定できるよう工夫する。
- 将来にわたって社会の一員として生きていけるように基礎・基本を身に付けさせ、タブレットを活用して学力や体力の向上を図る。
- 「理数教育の充実」のため、学習意欲を引き出す体験的学習を重視した授業展開を工夫するとともに、企業や高等学校、大学、渋谷区こども科学センター・ハチラボとの連携を図る。

(3) 自ら進んで将来の生き方を考えさせるとともに社会性を身につけさせる

- 進路指導、キャリア教育を充実させ、将来の生き方や他者との関わり、社会性を身につけさせる教育活動を展開する。
- 自主性や主体性を育てるために、生徒会活動や専門委員会活動、学校行事、学年行事等で、生徒に企画運営させる機会を設定する。
- 外部講師の活用を図り、ボランティア活動や伝統文化体験活動などのオリンピック・パラリンピック教育を重視し多様な体験活動を充実し心を耕す教育の充実を図る。

(4) 地域に開かれた信頼される学校づくりを行う

- 学校運営協議会等で寄せられた意見や課題について、その後の教育活動に反映させ改

善していく。地域の協力を得る活動を増加していく。

- 学校だよりの発行やホームページの更新を行い、学校の教育活動の様子を随時発信する。
- 土曜授業日や授業参観日、セーフティ教室、道徳授業地区公開講座、保護者会、個別面談をはじめ、運動会、さみどり祭などの学校行事の機会に、保護者、地域の人が来校する場を設定し、教育活動を公開することにより、学校教育に対する信頼関係を構築する。
- 小学校との連携活動を充実させ、小中連携教育の視点に立った教師間の交流を中心とした研修会を実施し、教科・学校行事等の検討を行うとともに、小学校での生活の様子を確認し、中学校生活の不安を解消していく。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 令和元年度の保護者、学校運営協議会からの評価等を踏まえ、改善していくべき課題は次の通りである。

- 主体的、対話的で深い学びを充実させることにより全教科で基礎学力の充実
- 生活習慣の規律徹底と学習習慣の充実

(2) 重点目標と方策

① 指導計画や評価計画をより良いものに見直すとともに、より充実した教育活動を推進していく

- ・全教育活動において、次期学習指導要領の柱の一つである「主体的・対話的で、深い学び」を意識した教育活動を推進していくため、お互いに授業を見あい、工夫改善していく。
- ・タブレットを活用して「主体的・対話的で深い学び」への関心・意欲を喚起する学習活動を充実させ、生徒のプレゼンテーション能力の定着をさせるため、年間1回以上、生徒が学校ICTを使用し発表を行わせる授業を行う。

② 特色ある教育活動を実施し教育活動を充実させていく

- ・「主体的・対話的で、深い学び」を実践するために、各教科の指導方法や教材の工夫、各領域の指導の全体計画、形成的な評価の充実と評価方法の工夫を示す授業計画・評価計画（シラバス）を充実させ、教師・生徒・保護者が一体となり確かな学力を育成する。
- ・「学力向上のための重点プラン」を作成し、生徒一人一人の学力の向上を把握するために定期テスト、単元別テストなどを工夫する等、各教科での授業アンケート結果に基づいた検証を行うことにより、学力調査の到達度を着実に上げていく。
- ・「道徳の教科化」に伴い、22項目35時間以上の道徳の時間を確保するとともに、評価について研修を深め適正に実施していく課題。

③ 生徒が主体的、意欲的に取り組み、興味や関心を高めることができる体験的な学習の場を数多く設定し、それぞれの内容をより充実させる

- ・「キャリア教育」の視点から生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。特に職場体験学習を3日間実施するなど主体的に自己の意思決定能力や将来設計能力・人間関係形成能力を育成する。
- ・生徒の自治能力を高めるために、生徒会活動・学年・学級における生徒の自主的活動を重視する。特に運動会・学芸発表会などの学校行事を充実させ、個性の伸長と社会性の育成を図る。
- ・特別な配慮や支援を要する生徒への対応は担任のみに任せず組織的に対応し、専門家等の支援を活用するため、校内委員会を充実させる。

④ 地域に開かれた、信頼される学校にしていく

- ・保護者、学校運営協議委員からの外部評価及び学校関係者評価等を活用し、学校経営の充実に生かす。また、地域の協力を得た活動を計画実施していく。
- ・学校便り、学年便り、進路便り、保健だより等の情報発信を積極的に行うとともに、ホームページを着実に更新し、鉢山中学校の教育を広く公開する。